園名　　奈良学園幼稚園

はばたくなら　③
自分の思いを出せるクラスづくり
～友達と思いを共感する場を通して～

4歳児　　5月～6月頃

取組について

〇3歳児2クラスがクラス分けとなり新学期がスタートした。なんとなく顔と名前はわかるが新しいクラスで初めて一緒になった友達とはすぐになじめず前年度同じクラスだった友達と遊ぶ場面が多く見られた。そこで初めて同じクラスになった友達とも一緒に遊べる場としてままごとや制作コーナーなどを準備した。一緒に遊ぶ中で相手のことを知り自分の思いを出せる最初のきっかけとなった。

〇気の合う友達同士で楽しむ泥んこ遊びの場面では自分の思いを出し遊びの中での役割が自然と生まれる姿が見られた。そこでクラスのみんなで泥んこ遊びや土粘土など五感を感じ楽しむ解放的な気分の中で自分の思いを出せる場を設けたいと考えた。保育者はこの遊びを通してそれぞれの役割や友達との関わりが生まれる事や友達のいいところに気付き親しみをもつきっかけになってほしいと願っていた。

〇保育者は、1年間を通して焦ることなく個性に合わせて一人一人の成長を願い、それぞれの子どもとのかかわりを大切にしながら過ごすことで、子どもたちが、安心して自分の思いを出すことができ、また友達の思いに共感し、思いを伝え合うことができるクラスづくりを目指したいと願っている。

実践事例

事例1　　「泥んこ遊びをたのしもう！」

〈ねらい〉　〇自分の思いを出しながら友達と一緒に楽しむ　　5月

４月の進級当初より砂場で気の合う友達と一緒に遊ぶ姿はよく見られた。砂場でままごと遊びでは、カップに砂を入れ、棚田に咲いているかわいい花を摘んできてかわいいケーキを作っていた。大きなスコップで山や川をつくり、そこに水を流しながら楽しむ姿がみられた。遊びの中で自然と役割も生まれ自分の思いを出して遊ぶ姿が見られた。それでも服が汚れる事を嫌がって砂場で遊ばない園児もいた。子どもたちが自分の思いを十分に出せる環境をつくりクラスや学年全体で遊べる場を設けそれぞれの個性や思い、相手の思いに共感できる場を作った。

子どもの言葉・思い　　保育者の助言・かかわり・環境づくり　　考察　　10の姿

「なにしてるん？」
「穴、掘ってる！」
「水いれよか？」
「うん！」
「汲んでくる！」
「ありがとう！」

大型スコップやバケツなどを準備し汚れてもよい服に着替えるなど準備をする

友達の活動に興味をもち一緒に遊ぶきっかけとなった

言葉による伝え合い・協同性

いろいろな形の樋を出す

「これ、持ってきた！」
「つなげてみよう！」
「よし！水ながそ！」
「あかん！水ながれへん！」
「ここ、持っといて！」

様子を見ながら樋の方向が維持できるようそっと手助けをする

「つなげたいけど…上手くいかないなぁ」
「そうだなぁ」

友達と一緒に考えたり、互いの思いを伝え合ったりすることができた

思考力の芽生え・協同性

「汚れるからいやだな」
「一緒に足、入れてみる？」
「うん！冷たそう！」
「一斉のせ！冷たい！」
「ぬるぬるしてる！」

「一緒に入ってみたら？」と誘い保育者も一緒に泥水の中に入った。
冷たい・ぬるぬるしているという感触の言葉に保育者も共感しあった

思いに共感し合うことで仲間意識ができてきた

協同性・社会性

〈個々の思いについて〉

・I児の場合

手先が器用で制作遊びが大好きなI児。自分で考えて作ることは好きだが、友達とはなかなか上手く一緒に作ることができない

保育者のかかわり

保育者と一緒に山を作るI児。やがて山の横に川を作り、そこに水を流し始めた。樋を使っている様子を見ながら遊ぶ

一人で山を作りかけているところに保育者が参加

保育者の思い・援助

「上手く水が流れない」という声が聞こえてきた。I児は「知らん顔」で遊んでいた

共感

友達の様子をI児に知らせた

困っている友達の声を聞いて、「手伝ったろか」とバケツを手に水を汲みに行って流す。どんどん水を汲んでは流すことを楽しんでいた

・Y児の場合

「汚れるのが嫌」というY児。はじめは保育者のそばにいた

保育者は意図的に周りの様子を知らせ自ら関わりを持とうとする環境を作った

川の水が足りないことに気付き始めると「水運び」をする役を引き受け、バケツで水を汲み始めた

水の注文が殺到して、1人では出来なくなってきた。すると周りの友達も水汲みを始めた

友達も一緒に走って水を汲みにいくようになった。やがて、友達と一緒泥の中に入る

汚れることを気にすることなく友達と一緒に楽しんで欲しい

Y児の水汲みが必要なこととその様子が大変そうなことを周りに知らせた

事例2　「土粘土を楽しもう！」

〈ねらい〉〇土粘土の感触を楽しみながら友達と一緒に作ることを楽しむ　６月頃

「足で踏んでもいいよう」
「よし！」
「かっこいい船つくろう！」
「いいね！」
「これつけたらどう？」

友達がやりたいと思っていることを周りの子どもに伝えたり一緒に遊んだりした

「みんなで片付けよう」

それぞれの思いが周りの友達に伝わるように言葉で伝えたり、形づくりを手伝ったりしながら思いを出す大切さや共感する気持ちを感じて欲しいと考えた。イメージの違いも細かく伝え合えるよう配慮した。

〈まとめ〉

・1学期のはじめということもあり、顔なじみの友達や保育者であっても緊張したりする場面もあった。なかなか上手く自分の事を伝えられない子どももいたが保育者が時には代弁するなどしながら一緒に活動する中で自分の思いを言葉で伝えることができるようになった。

・自分の思いを出せた経験をしたことで、周りの友達のことも理解し、遊びに興味を持ち安心して園生活をおくるきっかけとなった。

・泥んこ遊びや土粘土は、触った感触も楽しく子どもの心を開放的にすることができた。

〈成果〉

・友達の思いに気付いたり、自分の思いを話したり伝えたりする場を設けることでクラスの中での自分の居場所ができてきた。自分の思いを言葉にしたり周りの様子を見ながら参加したり手伝ったりする経験は協同性や社会性の芽生えを感じさせるものだった。

・一人ではできないことも、友達と一緒に知恵を出し合いながら考えたり、力を合わせて工夫したりする経験は仲間意識を育て、協同的な活動をするきっかけづくりとなった。

・自分の意見が上手く伝わらず意見が分かれトラブルになることもあった。それぞれの思いを保育者が丁寧に説明することで納得し、遊びが継続できたり、お互いのよいところを見つけたりするなど遊びが広がるきっかけにもなった。

〈課題〉

自分の思いを出すためには、保育の環境が自分の意見を安心して出せる場でなくてはならない。いつもの遊びの中で芽生えるさまざまな感情や思いを受け止め、安定した生活を送るというのは、頭では理解はできても実践は本当に大変だ。また保育者にも時間と心のゆとりがないと思いに寄り添う保育は難しいと感じることもある。子どもの事を理解しながら日々葛藤はこれからも続くだろう。子どもに日々寄り添い、失敗を励まし、成功を共に喜び、ともに悩む日々を毎日楽しく過ごせるように保育を工夫する努力をいとわない気持ちをもち続けたい。